

令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h3>1 一人一人の児童生徒の尊重</h3> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<h3>2 友達への思いやり</h3> <p>子どもは、友達となかよくしていると思いますか。</p>	<h3>3 道徳・心の教育の充実</h3> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】本年度は、授業参観や多くの行事を実施することができなかったため、直接に教育活動を参観してもらうことができなかった。その中でほとんどの項目で90パーセント以上の肯定的評価がみられた。とりわけ、児童の「友達への思いやり」において97.6パーセントが肯定的評価であった。しかし、「一人一人の児童生徒の尊重」については、保護者の肯定的評価は84.3パーセントにとどまり、昨年度より7.4パーセント低下した。教職員の評価が昨年と変わらなかったことから、保護者が学習活動を参観する機会が減ったことも原因として考えられる。一人一人の児童生徒の様子をもっと丁寧に伝える必要がある。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<h3>4 意欲的な学習態度</h3> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h3>5 授業力向上</h3> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h3>6 ICT活用</h3> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】「確かな学力を育む教育の推進」でも、ほとんどの項目で肯定的評価が90パーセントを超えた。「意欲的な学習態度」について児童は昨年と比較して「4」と答えた児童が5パーセント向上した。コロナ対応で、学習活動が制限される中で児童は意欲的に学習に取り組んでいる。しかし、「ICT活用」については保護者の評価は、82.3パーセントにとどまっている。昨年度より8.5パーセント下がっている。教職員の肯定的評価が100パーセントであることを考えると、授業の様子を丁寧に伝える必要がある。今後は授業におけるICT活用を推進するとともに、家庭におけるタブレット活用を工夫する必要がある。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<h3>7 健康づくり</h3> <p>子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p> <p>【学校から】「健康づくり」については、運動や外遊びについて二極化がみられる。食生活や基本的な生活習慣についてできていない児童もいる。日常的に指導するとともに、家庭と連携する必要がある。</p>

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<h3>8 児童生徒理解</h3> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p>
--

<h3>9 いじめや問題への対応</h3> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
--

②特別支援教育の推進

<h3>10 学校の支援体制</h3> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
--

【学校から】「児童理解」について、「4」と回答した割合は、児童は53.3、教職員は44.0、保護者は34.7パーセントであった。昨年度より改善されたが、教職員と保護者に9.3パーセントの開きがある。「いじめや学校問題への対応」については、教職員や児童が約70パーセントが「4」と回答しているが、保護者は保護者は26.9パーセントにとどまっている。保護者にいじめ問題への対応や防止策を丁寧に伝える必要がある。「特別支援教育の推進」については、昨年度と同様に保護者の86パーセントが肯定的評価だった。支援を必要とする子どもの教育については、家庭とも共通理解を図り取り組む必要がある。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

<h3>11 安全と事故防止</h3> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>

②最適な学習環境の整備

<h3>12 施設・設備の安全管理</h3> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
--

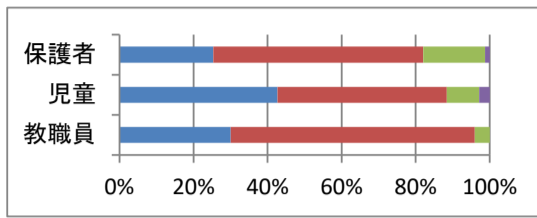
【学校から】「安全と事故防止」については、保護者の86.3パーセントが肯定的評価であった。昨年度より7パーセント低下した。学校の重要課題として、地域や家庭と連携して安全指導を行う必要がある。

【学校から】学校の施設・設備については、88.4パーセントが肯定的評価だった。例年、トイレの臭いについて記述がみられていた。毎月、安全点検をさらに丁寧に実施する必要がある。

③家庭・地域社会との連携強化

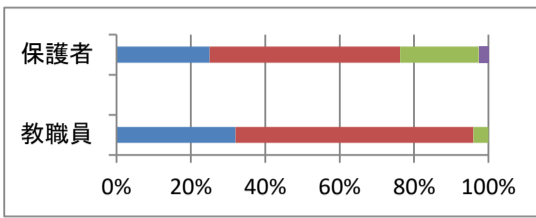
13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

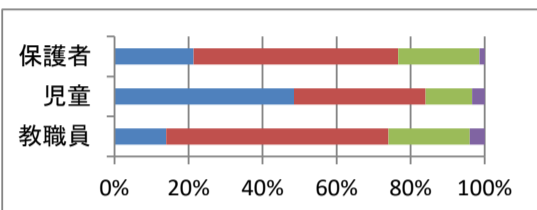


【学校から】「教育方針・目標の理解」は77.7パーセント、「家庭や地域との連携協力」は91.1パーセント肯定的評価が低下した。本年度は、授業参観やPTA総会を実施することができず、直接に学校の教育方針を説明したり、教育活動を参観してもらったりすることができなかった。さらに、地域との交流もできなかった。保護者へは、学校便りをはじめとして、学級通信や学校ホームページで教育方針や学校教育活動の様子を伝えてきた。今後も工夫して家庭や地域との連携協力を行う必要がある。

⑧本校の教育

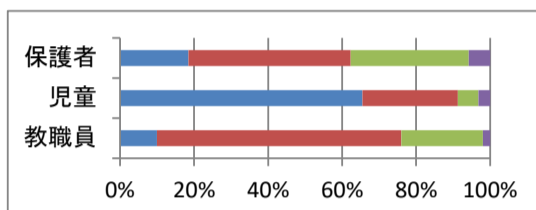
15 道徳・心の教育の充実

子どもは、進んであいさつができていると思いますか



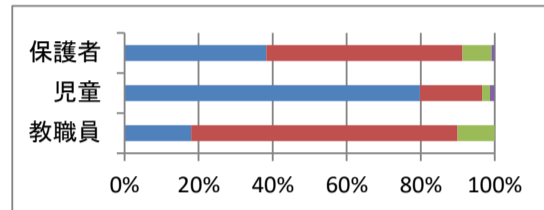
16 基本的な生活習慣

子どもは、きちんと靴を並べていると思いますか。



17 友達への思いやり

子どもは、友だちを大切にしていると思いますか。



【学校から】「あいさつ」については、保護者の76.6パーセント、児童の84パーセント、教職員の74パーセントが肯定的に評価している。1年間指導してきた成果がみられた。靴並べについては、2学期に全職員で指導してきた。その成果として、91.3パーセントの児童が肯定的評価がみられた。しかし、保護者の評価は62.3パーセントにとどまっている。学校と保護者が連携して家庭でも靴並べをするように取り組む必要がある。「友達への思いやり」については、児童の96.6パーセントが友だちを大切にしていると回答した。保護者や教職員も90パーセント以上が友だちを大切にしていると回答している。

来年度の具体的な取り組みについて

- 来年度も今年度同様に、コロナ対応の中での教育活動を進めていくことになる。卒業式や運動会などの学校行事や授業参観、地域との交流等を昨年度までと同じ様に実施することができないと考えられる。学校の教育方針や学校教育活動については、学校だよりや学級通信、学校ホームページ、児童が持ち帰るタブレット等を活用して伝える必要がある。また、学級担任も児童一人一人の教育活動の様子を伝える工夫を進めていく。
- 「安全と事故防止」については、学校の重要課題として、児童に対して丁寧に登下校をはじめとした安全指導を行う。同時に地域（長嶺校区自治協議会）や家庭と連携して安全指導を行う。
- 電子黒板やタブレットなどICT活用が定着し、ペーパーレス化をはじめ校務の効率化が定着した。電子黒板やタブレットを使って多様な授業展開が可能になり授業の質の向上が見られた。今後、校内研修や校外研修を活用し、ICT活用による校務や学習活動のさらなる充実を図りたい。また、一人一台のタブレット所有を生かして、授業や家庭での活用を充実させていく。
- 児童一人一人のよさを伸ばし、個に応じた取組を具体的に保護者に発信したり、いじめ問題についてもいじめに対する取組等を定期的に伝えたりするなど、理解を進める必要がある。

学校関係者評価

- 本年度は、運動会をはじめとして学校行事や授業参観を実施していないので、学校評議員の方々に本校の教育活動を直接参観していただけていない。それで無回答の項目が多くみられた。また、学校の教育方針について説明できたのは、第1回の学校評議員会だけであった。学校の教育活動の様子については、伝え方を工夫する必要がある。
- 評価が最も低かったのは「あいさつ」である。今回の学校評価では、「あいさつ」については、保護者、児童、教職員ともに評価は良好であった。家庭や学校内では「あいさつ」がよくなってきている。しかし、登下校をはじめとした地域でのあいさつに課題があることが明らかになった。
- 「安全と事故防止」についても課題が見られた。現在、児童は地域の方の見守りによって大きな事故がなく登下校ができている。見守りをさせていただく地域の方にお礼の手紙を渡すなど、児童に感謝する心も育ちつつある。感謝する心を育てていくとともに、登下校時の安全指導を進めていかなければならない。
- 「家庭や地域との連携協力」については、今年度、地域学習は動画等も活用して工夫して進めてきたが、地域の方との交流ができなかった。来年度は、リモート等を活用して人との交流を進めていきたい。